KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立動力噴霧機

RC451/1-8
RC451/1-10
FP303
FP403

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

2003/01

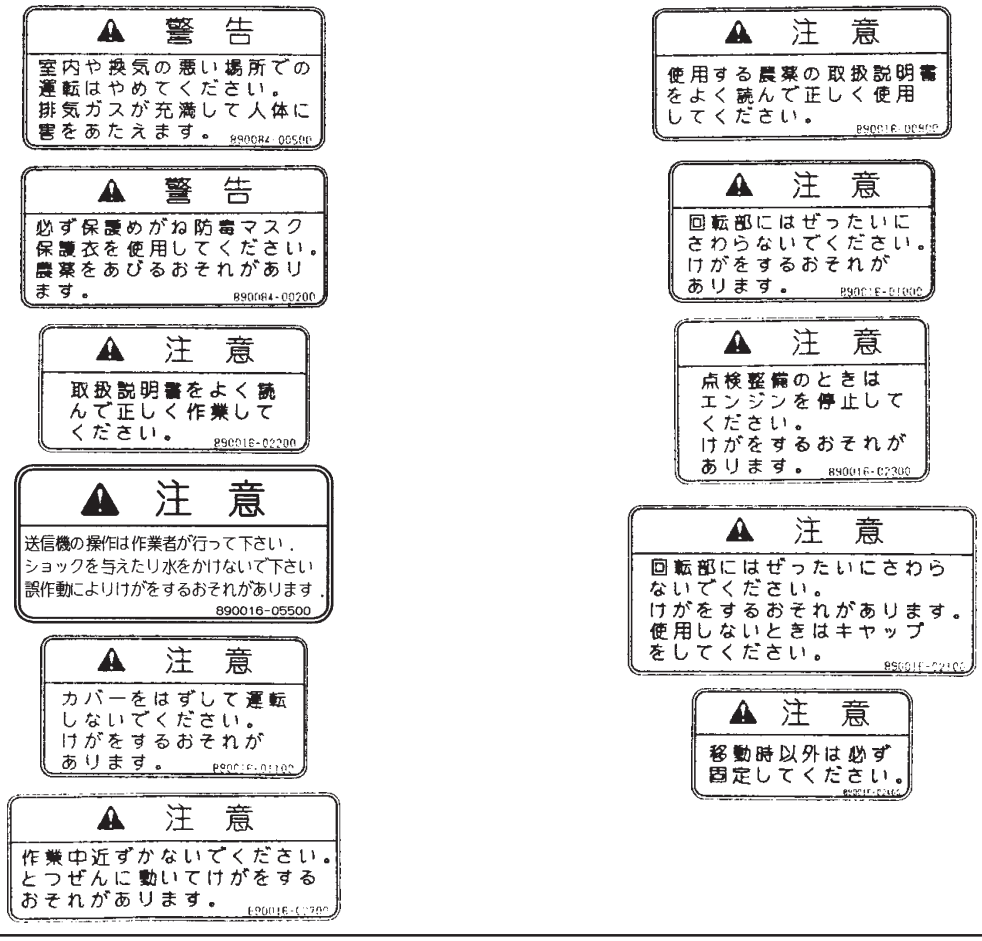
⚠ 注　意

- **この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。**
- **この説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。**
- **この取扱説明書で解説している機械を、貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。**
- **製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。**
- **ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。**

警告表示ラベルについて

- **この取扱説明書で解説されている機械には、下記の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に「警告表示ラベルの位置」で確認し、ラベルの意味を理解してください。**
- **万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店より新しくラベルを購入し、「警告表示ラベルの位置」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。**

警告表示ラベル



はじめに

共立動力噴霧機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

- この動力噴霧機をこの取扱説明書に書かれている目的以外に使用しないでください。
- この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。

目　次

はじめに 1
各部の名称 2
正しい作業のために 5
組　立 10
運転前の準備 12
送信機を正しく使用するために（ＲＣ４５１のみ） 13
操作方法 14
輸送・移動時の注意 15
点検・整備 15
各部の調整 16
故障対策 20
長期保管 20
仕　様 21

・説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・単位はＳＩ単位を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

⚠ 警　告

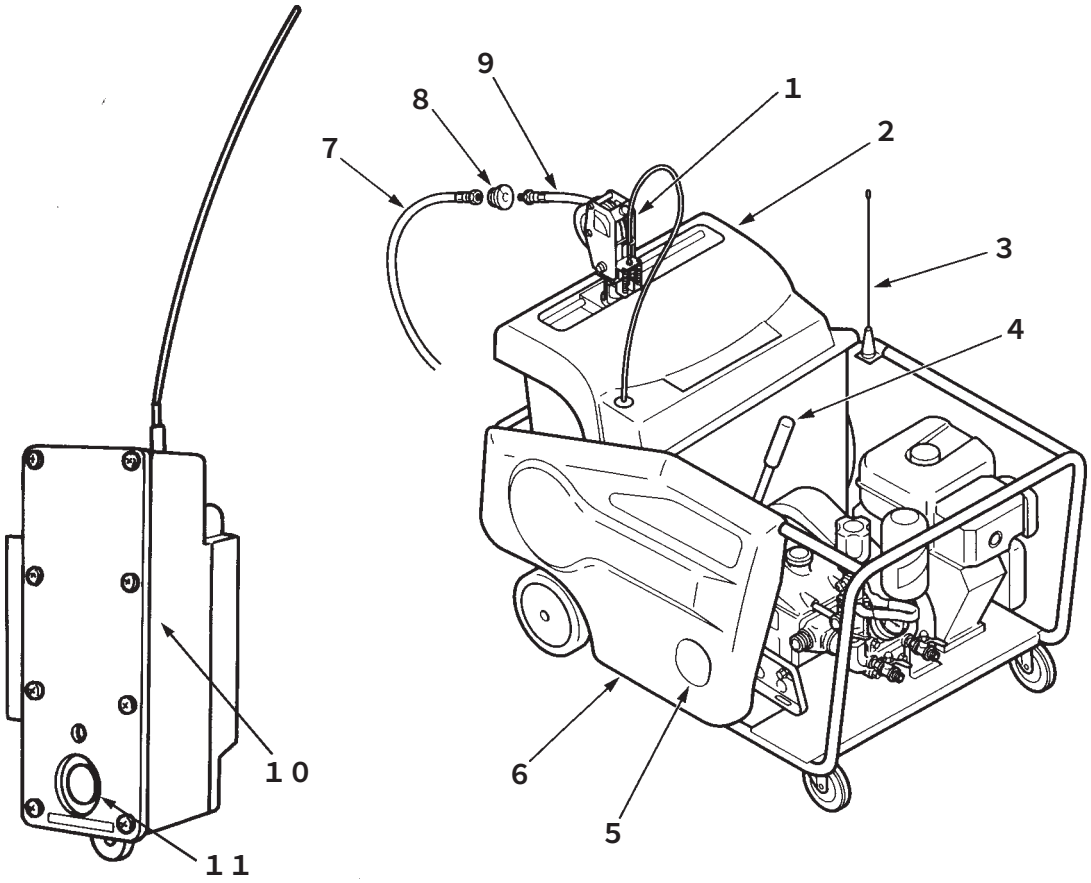
- 正しい作業のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
- 正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読むこと。

丛に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

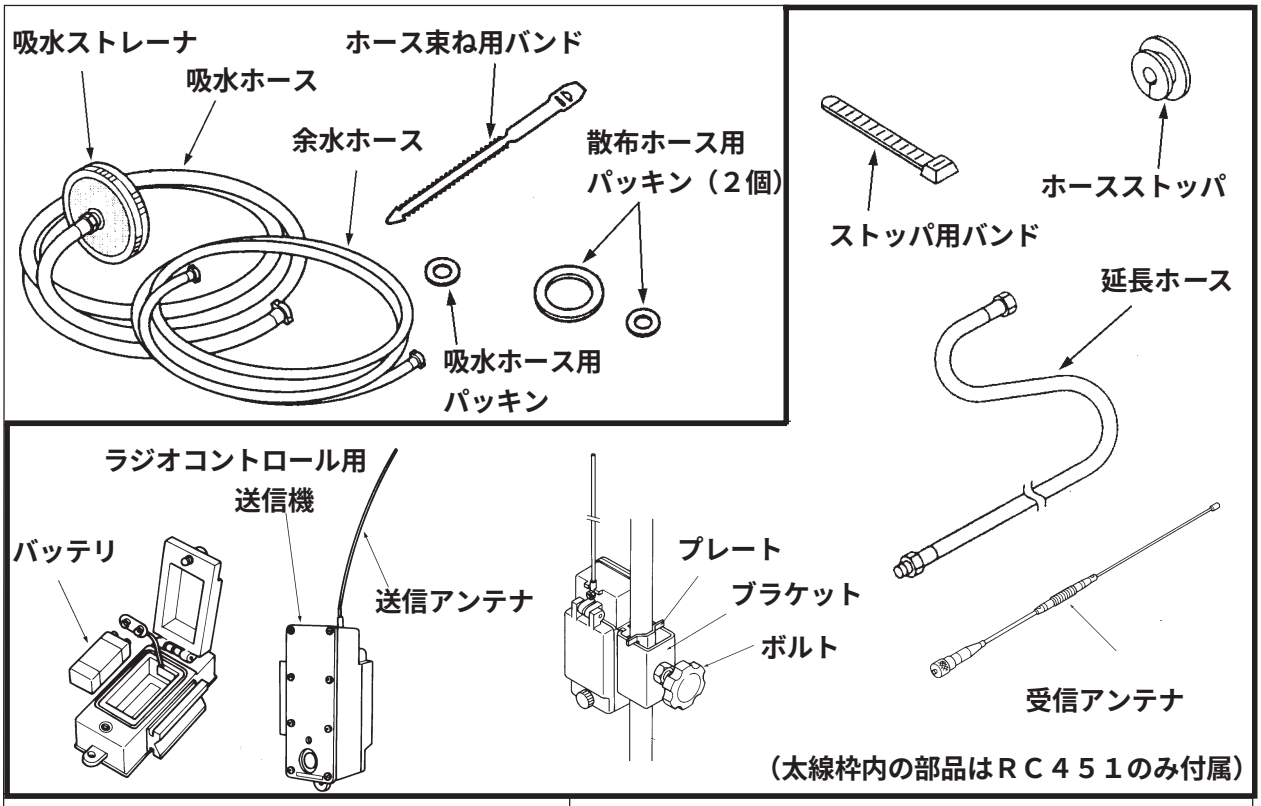
各部の名称



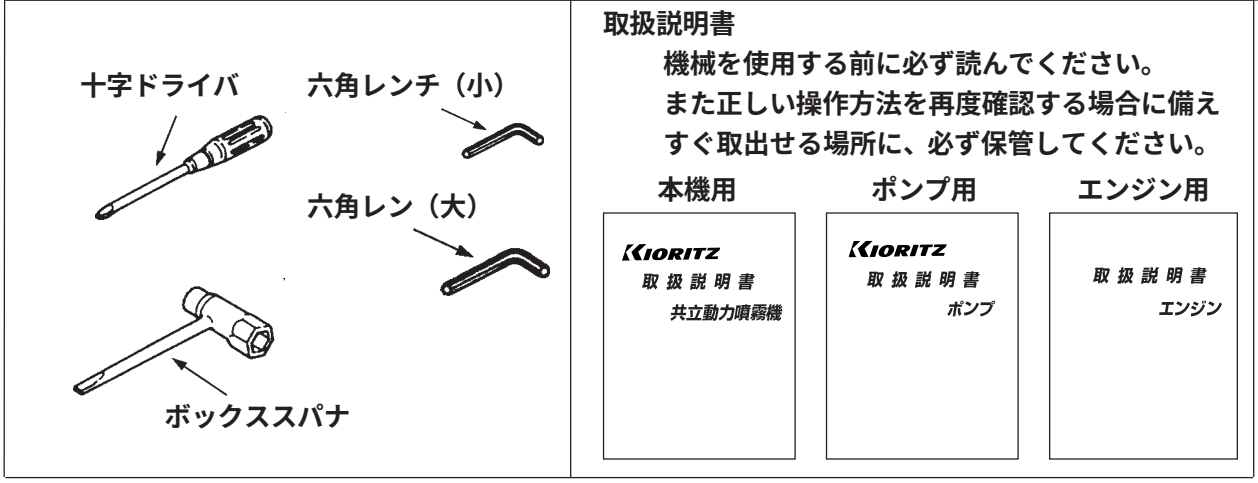
各部の名称

１．ホースガイド　——　スプレーホースの巻取り、引出しのガイドをします。
２．トラバースカバー　——　ホース並列巻装置をカバーします。
３．受信アンテナ　——　ラジオコントロール装置の受信アンテナです。
４．巻取りレバー　——　手動操作でスプレーホースを巻取るときに使用します。
５．かくはん軸取出キャップ　——　かくはん用動力取出し口です。
かくはん機を接続する場合、このキャップを外して装着します。
６．サイドカバー　——　回転部に触れるのを防ぐためのカバーです。
７．延長ホース　——　ホースストッパ取付の際に使用します。
８．ホースストッパ　——　スプレーホースの巻込み過ぎを防ぎます。
９．スプレーホース　——　散布用のホースです。
１０．送信機　——　ラジオコントロールによる遠隔操作を行なう装置です。
１１．巻取りスイッチ　——　押している間スプレーホースを巻取ります。
（但し、３，１０，１１番はＲＣ４５１のみ装備）

付属品



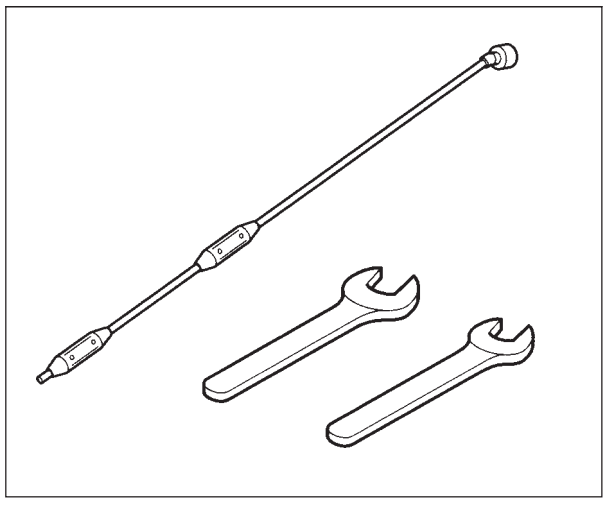
（太線枠内の部品はＲＣ４５１のみ付属）



取扱説明書

機械を使用する前に必ず読んでください。
また正しい操作方法を再度確認する場合に備え
すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。

本機用	ポンプ用	エンジン用
KIORITZ 取扱説明書 共立動力噴霧機	KIORITZ 取扱説明書 ポンプ	取扱説明書 エンジン



お客さまがご用意するもの

ノズル、工具　（スパナなど）

ノズルの選択について

ノズルの吐出量が動力噴霧機の吐出量より多いと適切な噴霧作業ができません。ノズルを選ぶときは仕様を確認し、余水ホースから戻る薬液量が全吐出量の１０％以上になるようにしてください。

ご不明な点は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

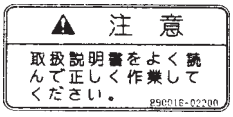
オプション部品について

ノズル、かくはん機、延長受信アンテナ台など多数のオプション部品をご用意しました。

詳細は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

警告表示ラベルの位置

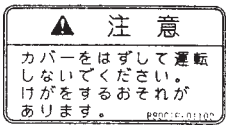
1.



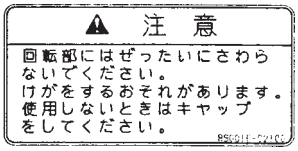
2.



3.



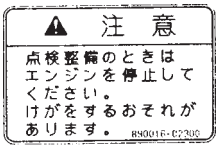
4.



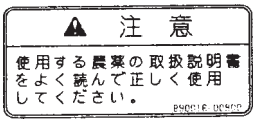
5.



6.



7.



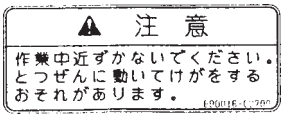
8.



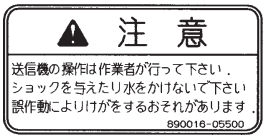
9.

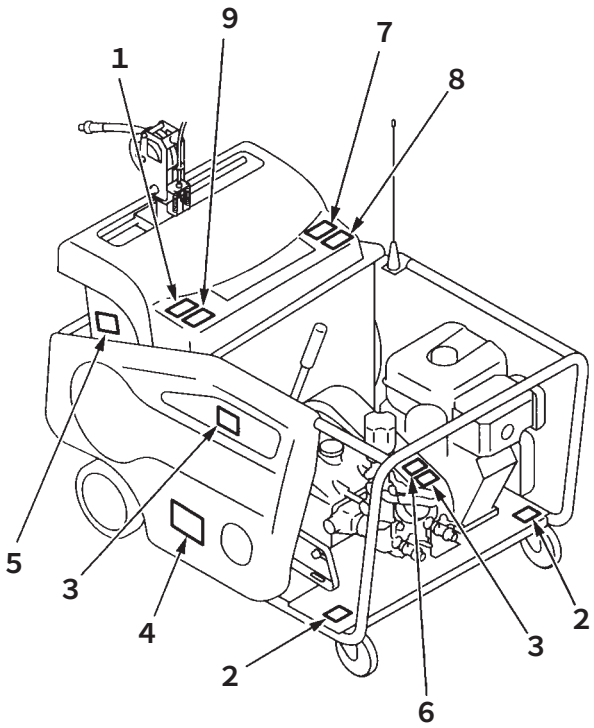


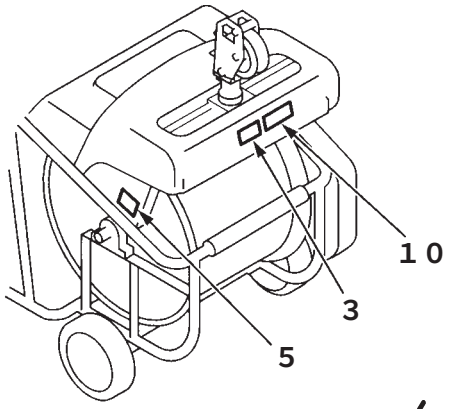
10.

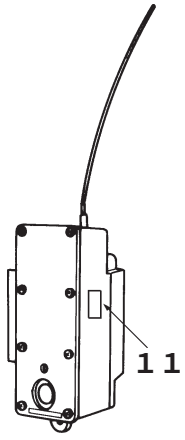


11.









（ＲＣ４５１のみ）

正しい作業のために

⚠ 注　意

作業計画を立て、この取扱説明書を参照し、適切な部品を選んでください。作業に合わない部品を使うと、動力噴霧機が故障したりご利用になる方がケガをすることがあります。ご不明な点は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

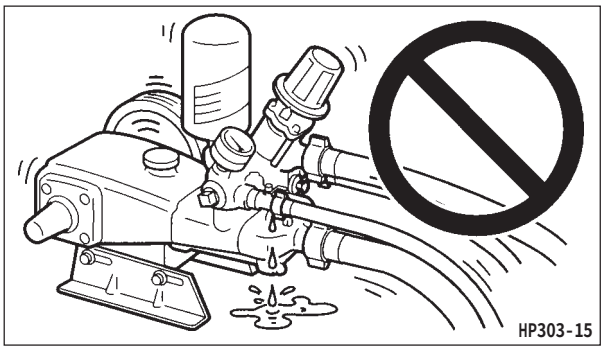
重　要

この動力噴霧機の仕様は一般農薬用です。特殊農薬や多種農薬混合を使用する場合は、特殊ゴム（バイトン）仕様のパッキンを使ってください。ご不明な点は、お買い求めの販売店または農協へお問い合わせください。



からだの状態

- **病気のときや体調が悪いとき、妊娠中の場合、また、アルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときには作業を行なわないでください。**

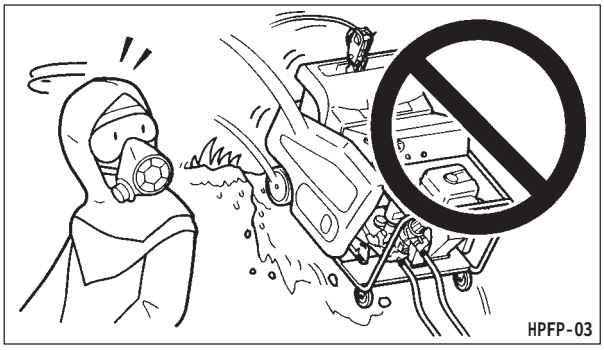


作業前の点検

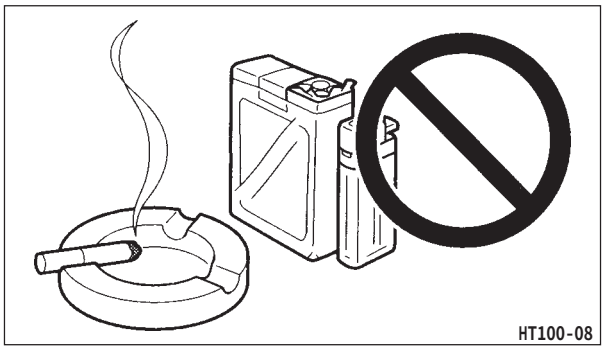
- **各部品がきちんと取付けられているか確認してください。ホースの取付けなど配管部が正しく締付けられていないと、空気の吸込みや内部液が漏れることがあります。**



- **子供が近くにいないことを確認してください。**



- **噴霧機を不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないでください。**



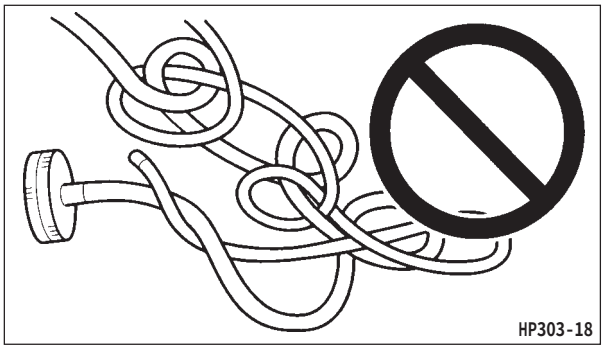
⚠ 警　告

燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

作業中の注意

重　要

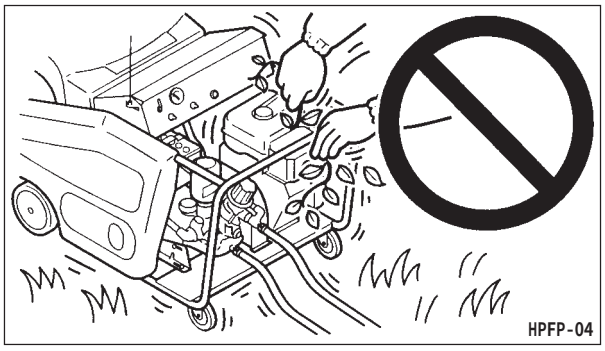
５分間以上､カラ運転を行なわないでください。ポンプの寿命を縮め、故障の原因となります。



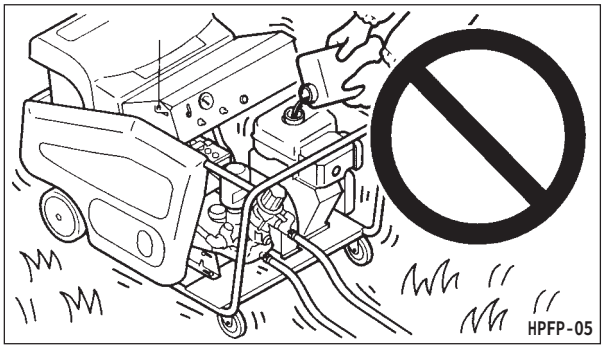
● **ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。**

重　要

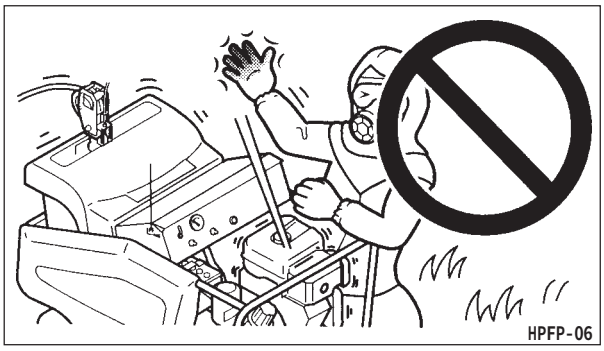
大型貯水槽や河川から吸水し､長時間使用するとエアチャンバの空気が水に溶け､抜けてしまうことがあります｡ポンプの故障の原因となりますので、２時間毎に必ず吸水ストレーナを水から出し､余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。



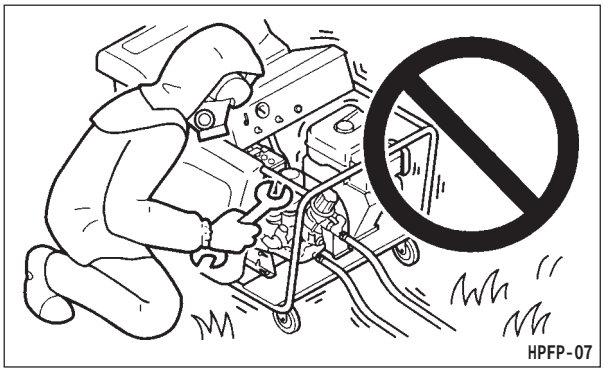
● **噴霧機やエンジンに絡み付いた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。**



● **燃料を補給するときは､必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから行なってください。**

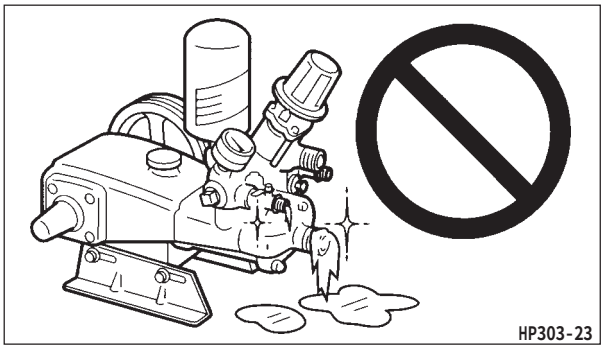


● 運転中は回転している部品（Vベルトなど）や高温部（エンジン、マフラなど）に触れないようにしてください。停止直後のエンジン、マフラはたいへん高温です。手を触れないようにしてください。

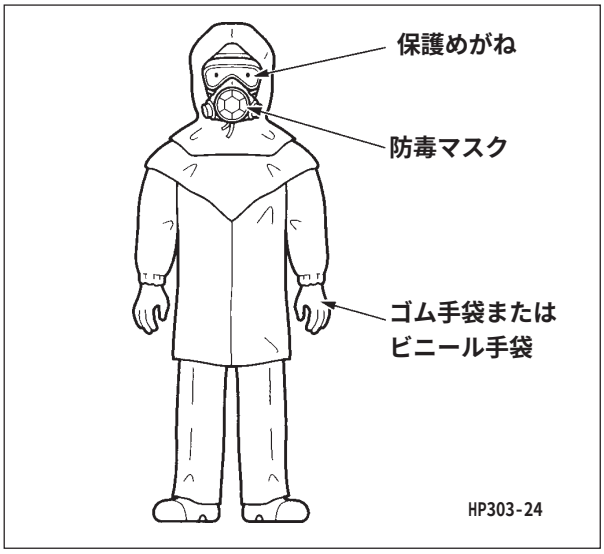


保守・保管の注意

● 修理、清掃などの作業を行なうときは、必ずエンジンを停止してください。



● 保管する前に必ず水を抜いてください。冬期には凍結することがあります。



⚠ 警　告

適切な服装、保護具を身に付けないと事故が起きることがあります。正しく作業するために、かならず適切な服装、保護具を身に付けてください。

農薬散布について

⚠ 警　告

農薬に関する法令および注意事項は、農薬の種類、使用する場所などにより異なります。そのため、この取扱説明書に農薬に関するすべての法令、注意事項を記載することはできません。お客さまが使用する農薬の使用方法、ラベル表示、関連する法令、注意事項をよく理解してから、散布作業を行なってください。

服装について

● 滑らない底が付いた靴をはいてください。つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。

● 農薬を散布する場合、頭、あし、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、農薬が皮ふに触れないようにしてください。

● 農薬が浸透しないような防水性、汗をかかないような通気性のよい衣服を身に付けてください。

農薬散布の保護具について

- 農薬を吸込まないために、防毒マスクを正しく着用してください。
- 目を保護するため､保護めがねを付けてください。
- ゴム手袋またはビニール手袋を使用してください。
- 農薬にかぶれやすい人は、保護クリームを顔、首、手首などに塗ってください。
- タオル、手ぬぐい、水など、汗を拭いたり顔を洗うために用意してください。

農薬散布前の注意

- 農薬のラベルには必要な注意事項が書かれています。いつも使用している農薬でもラベルの内容に変更がある場合があります。使用する前に必ず読み、その指示にしたがってください。
- 薬剤を溶かすときは､防毒マスク､ゴム手袋､保護めがねなどの保護具を着用してください。
- 作業を行なう場所をよく調べ､作業者以外の人、子供､家畜､養蚕､養蜂､他の作物などが近くにないことを確認してください。

重　要

薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると､ノズルの目詰まりの原因となります。

農薬散布中の注意

- 散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がると農薬が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗してしまいます。
- 農薬がからだにかかるのを避けるため、風下の方を向き、風を背中に受けるようにして、後ろ側へ進みながら散布してください。
- 農薬の散布はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。

⚠ 警　告

- 夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。
- 風が強いときには絶対に散布を行なわないでください｡風向きが急に変わり､予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。

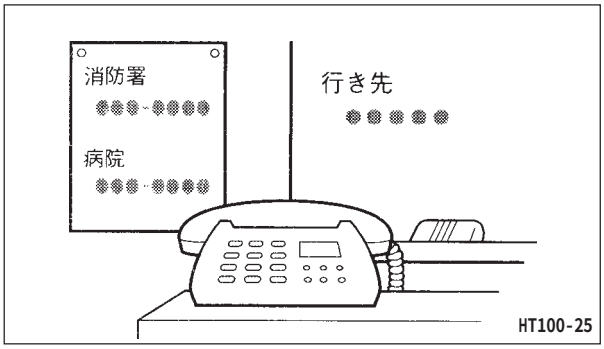



HP303-26

● 作業をしながらタバコを吸ったり食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中にはいることがあります。

⚠ 警　告

作業中、からだに異常を感じたときは、すぐに作業を中止し医者に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。



HT100-25

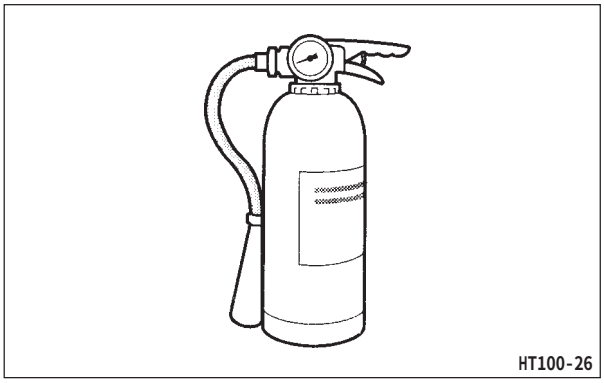
万一の事故に備えて

● 作業の前に

・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。

・作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

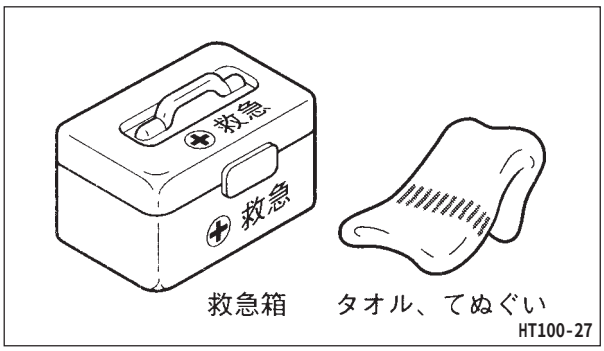

HT100-26

● 発火に対する備え

⚠ 警　告

作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、機械から離れ、まず、自分の身体の安全を確保してください。

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。



HT100-27

● ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

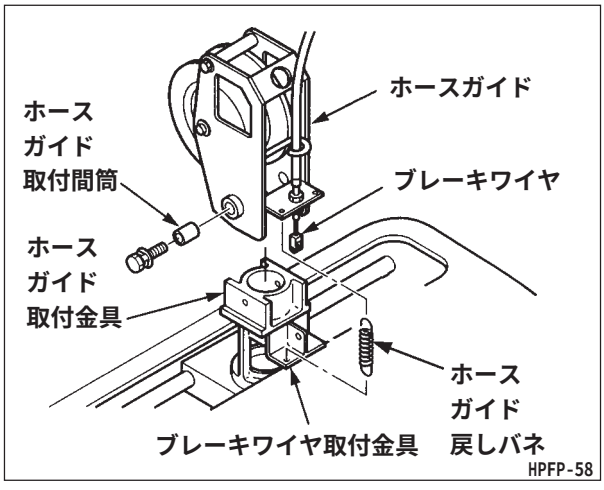
⚠ 警　告

作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医者に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

農薬散布後の注意

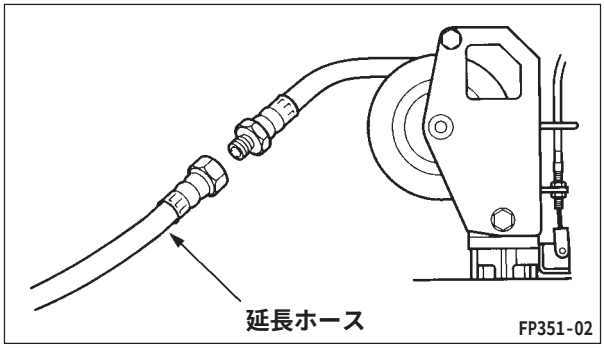
- **農薬が乾くまでは立入禁止の表示を置いてください。**
- **農薬が残ってしまった場合は、川、下水道などに流さないでください。周囲に影響がない場所に散布してください。散布用にうすめた農薬は分解が早いので､残さないようにしてください。**
- **農薬の空き容器はきれいに洗い、適切な方法で処理してください。**
- **農薬、器具の後かたづけが終わったら、手、顔など外部にさらされた場所を石けんでよく洗い、うがいをし、入浴をして全身をよく洗ってください。作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。**
- **農薬散布の後は飲酒をひかえてください。農薬を吸入した場合、体内の酵素の働きが低下します。このようなときにアルコールを飲むとさらに酵素の働きが低下し疲労の回復が遅くなります。**

組　立



ホースガイドの取付け

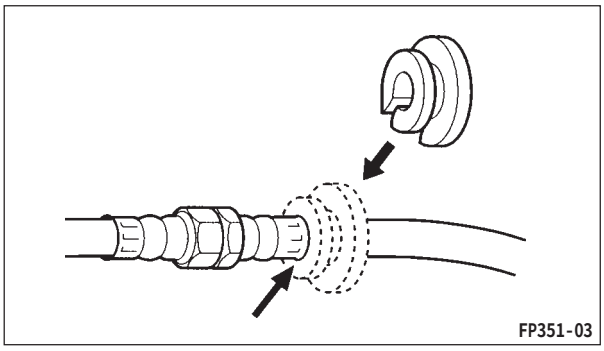
- **次の１～３の順序で取付けてください。**
  1. **ホースガイドにホースガイド取付間筒を組込み、ホースガイド取付金具に取付けます。**
  2. **ブレーキワイヤをブレーキワイヤ取付金具に取付けます。**
  3. **ホースガイド戻しバネを取付けます。**



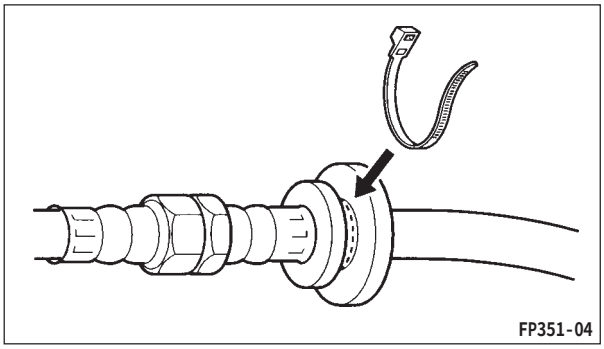
ホースストッパの取付け

（ＲＣ４５１のみ）

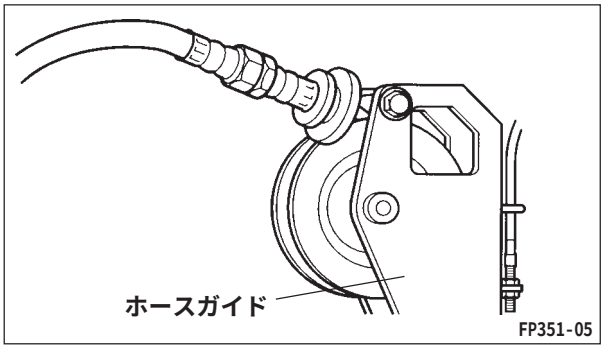
- **次の１～４の順序で取付けてください。**
  1. **スプレーホースの先に延長ホース（付属品）を付けます。**



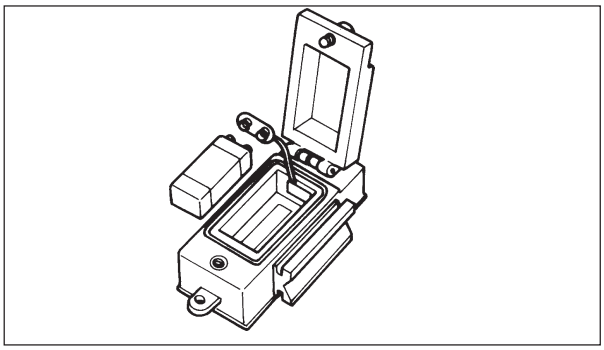
２．ホースストッパをホースの金具にあてるように取付けます。



３．ホースストッパ用のバンド（付属品）で締付けます。



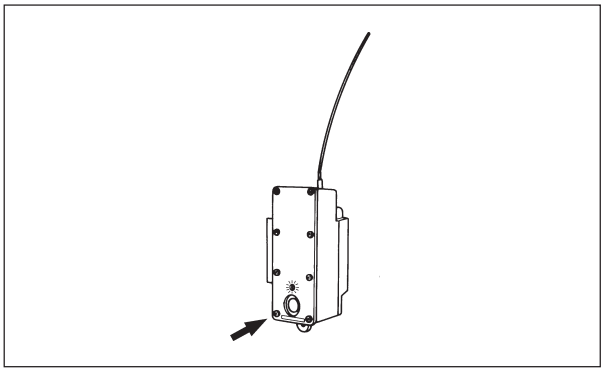
４．スプレーホースの巻込み過ぎを防止します。



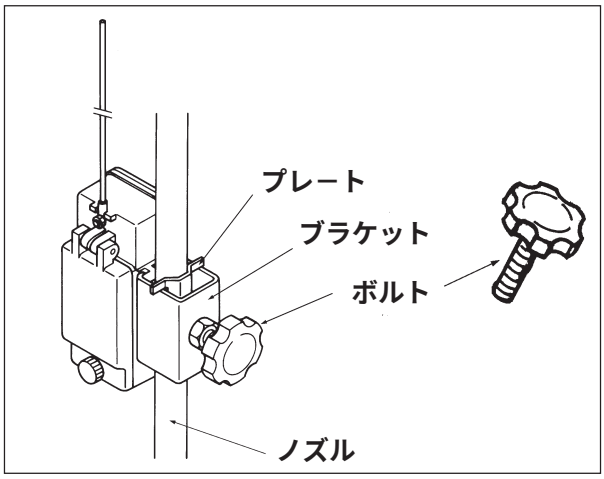
送信機の取付け（ＲＣ４５１のみ）

● 次の１～３の順序で取付けてください。

１．送信機のふたを開け、付属のバッテリを入れてください。



２．ふたを閉じ、巻取りスイッチを押してランプが点灯するのを確認してください。



3．ノズルの噴管に付属のボルトで、送信機をしっかり取付けてください。

運転前の準備

各部へ給油する

重　要

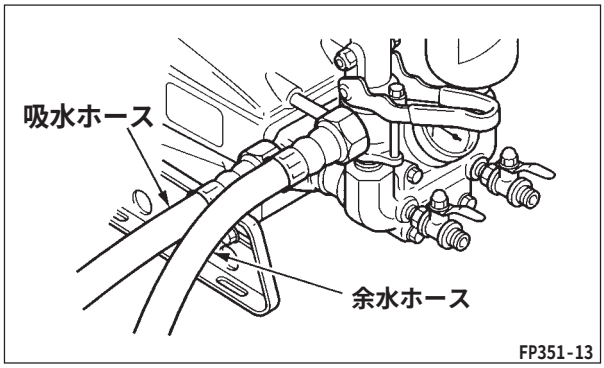
工場出荷時には、ポンプ、エンジンにオイルを入れていません。ポンプ、エンジンの取扱説明書にしたがいオイルを給油してから、運転をはじめてください。

重　要

指定レベルより多く入れるとオイルが吹き出ることがありますので注意してください。

各部オイルを点検する

- ポンプ、エンジンの取扱説明書にしたがい、ポンプとエンジンのそれぞれのクランクケースに、オイルが指定レベルまで入っているか確認してください。
- オイルの汚れを点検し、汚れがひどい場合には交換してください。



吸水ホース、余水ホースを接続する

吸水ホースはエアの吸込みがないよう、きちんと接続してください。

送信機を正しく使用するために（ＲＣ４５１のみ）

重　要

送信機、電気系統に水、薬液がかからないよう注意してください。故障の原因となります。また、送信機を自動車内など高温多湿の所に放置しないでください。故障の原因となります。

１．送信機操作

● **エンジンの回転が低いと、リールクラッチが入りにくいときがあります。そのときはエンジンの回転を少し上げてください。**

２．バッテリについて

● **送信機に使用するバッテリは積層形乾電池〈６Ｆ２２（Ｓ－００６Ｐ）／６ＬＲ６１〉１ヶです。電源の＋、－を逆に接続すると故障となる恐れがあります。バッテリは正しく接続してください。送信機のバッテリ容量が不足し、操作スイッチを押している状態で約６Ｖ以下になると正常な送信ができなくなりラジオコントロールでの作業ができなくなります。**
バッテリが減ってくると、操作スイッチを押したときに点灯していたパイロットランプが点滅になりバッテリの交換時期であることを知らせます。
その状態では、操作スイッチを押し続けても送信機の出力が途切れますので使用できません。
操作スイッチを押したときに、パイロットランプが点滅もしくは消灯するようになったら電池を交換してください。また、作業のときは予備電池を携帯するようにしてください。

３．電波障害・到達距離について

● **通信を妨害し、到達距離を短くしたり動作を途切れさせる原因にノイズがあります。**
静かな場所では、離れていても小さな声で会話ができますが、騒音のある場所では聞き取れないために近づくか、騒音源から離れなければ会話ができないことと同じです。
騒音をノイズ、小さな声を送信機からの電波と思ってください。
ノイズを取除くことが理想ですが、実際には無理な話です。
電波障害となり得る例として、下記のような原因が上げられます。
- **高圧線（送電線）が近くにある。**
- **強力な電波を出すところ（空港など）が近くにある。**
- **電動モーター（扇風機、回転灯など）や、発振機（バックブザー、超音波を利用する機器など）が近くにある。**
- **電気的な火花を出すもの（チェンソー、オートバイ、電気溶接機など）が近くにある。**
- **本機に金属のきしみ（金属同士の摩擦、ネジのゆるみ部分など）がある。**
- **本機のそばにエンジンのかかっている自動車がある。**
- **本機の近くを自動車が走っている。**
- **建物が近くにある。または建物の中（ビニールハウスなど）で作業している。**
- **その他有害電波により送受信が不可能な場合。**

上記は一例です。ノイズ源から受信アンテナをできるだけ離して、ノイズの影響を少なくします。騒音源から離れて会話をするのです。
そして、受信アンテナを周囲から見て、アンテナが隠れるようなもの（壁、屋根なども含む）や、金属体（電線、工具）を配置しないようにして、送信機を操作する人は受信アンテナが見える位置で操作をするようにしてください。
ノイズ源が見つかっても、それが他人のものであったり公共のものの場合にはノイズ源を取除くことはできません。
到達距離が短くなることと、動作が途切れてしまうことを念頭に充分注意して作業を行なってください。

４．エンジン点火プラグ

● **点火プラグを交換するときは必ずＲプラグと指定してください。**
（Ｒプラグ以外では受信不良となります。）

５．アンテナ台の取扱い（オプション）

● オプションのアンテナ台は受信感度を上げるためのものでマグネット（磁石）式になっています。

① アンテナ台のコードの端末ネジを本機のアンテナ線に接続します。このときネジが止まるまできっちりと締込んでください。

② アンテナ台を本機より１m以上離れた位置のなるべく高い所にアンテナが垂直になるように取付けてください。
例）トラックの屋根

③ 移動時にはアンテナを保護できる別の位置に移動するようにしてください。

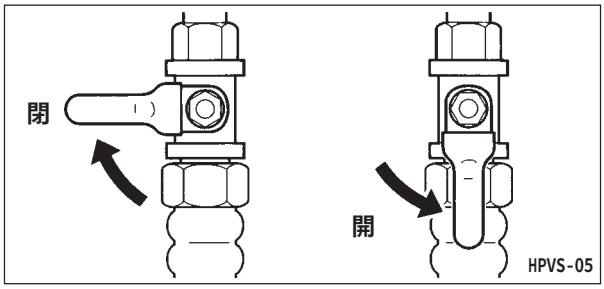
操作方法

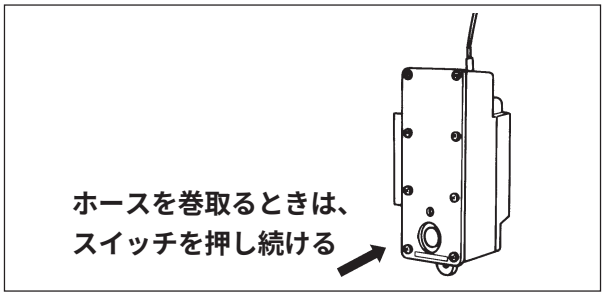
エンジンを始動する

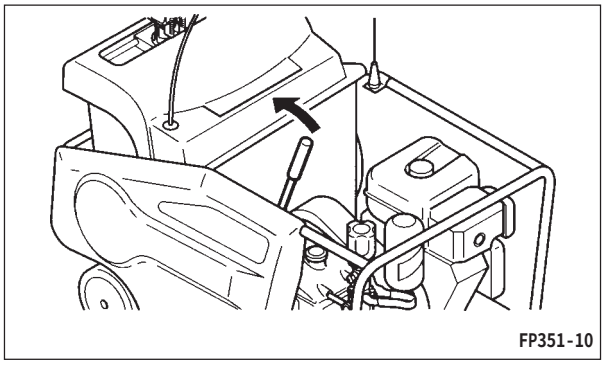
エンジンの取扱説明書にしたがって始動してください。

⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。







スロットルを操作する

エンジンの取扱説明書にしたがって操作してください。

圧力を調整する

ポンプの取扱説明書にしたがって調整してください。

スプレーホースを引き出す

ホースを手で引き出してください。引き出すと自動的にブレーキが解除され、引き出しをやめると自動的にブレーキが掛かります。

散布作業をはじめる

吐出コックを「開」の位置に動かしてください。

スプレーホースを巻取る

● 送信機の巻取りスイッチを押し続けてください。スイッチをはなすと巻取りが止まります。
スイッチをはなしてから実際にリールクラッチが切れるまでに瞬間的にタイムラグがあります。スプレーホースを充分に引出して練習しましょう。（ＲＣ４５１のみ）

● 巻取りレバーを前（トラバースカバー側）に倒すとリールクラッチが入りスプレーホースの巻取りを開始します。レバーはあまり強く操作しないでください。ＲＣ４５１の場合スプレーホースの巻取り中に残り少なくなったときは、このレバーで巻取りを行なうと便利です。

エンジンを停止する

エンジンの取扱説明書にしたがって停止してください。

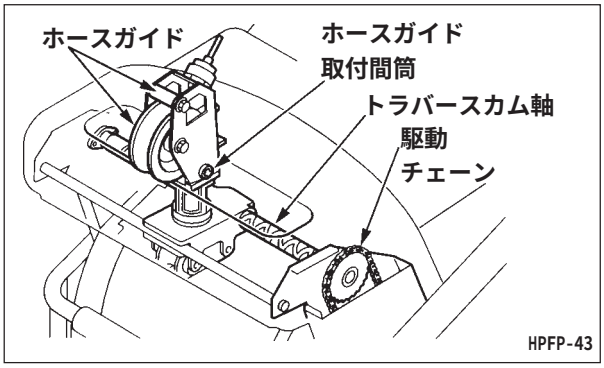
輸送・移動時の注意

動力噴霧機を輸送・移動するときには、以下の点を守ってください。

- 必ずエンジンを停止する。
- 使用後に輸送・移動するときには、エンジン、マフラが冷えるまで待つ。
- 燃料をカラにする。
- 動力噴霧機に衝撃をあたえないようにする。
- アンテナが損傷しないような所へアンテナ台を動かす。

点検・整備

- 点検・整備は、充分な広さがあり、安定した場所で行なってください。また、タバコ、その他の火気は厳禁です。



- 各部の給油
  下表にしたがって給油を行なってください。

部 品 名	整備内容	整 備 時 期
トラバースカム軸	給油	２０時間使用ごと
駆動チェーン	給油	毎年
ホースガイド取付間筒	給油	２０時間使用ごと
ホースガイドローラ	給油	２０時間使用ごと
Ｖベルト	点検・交換	使用時期前

重　要

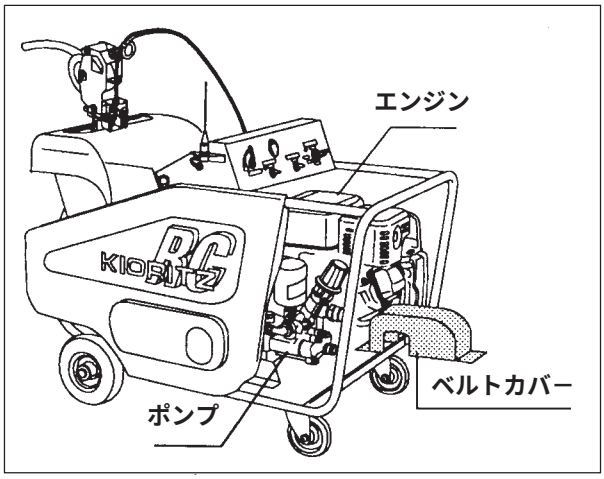
- この表の期間にしたがって整備・点検を行なってください。ただし、実際の使用条件や使用回数により必要と判断した場合は整備・点検の回数を増やしてください。
- 毎月、毎年の整備・点検を行なった日付を記録してください。
- １年に１回以上は、お買い求めの販売店に、定期点検を依頼してください。

重　要

バッテリ、ポンプ、エンジンの取扱説明書にしたがって各部品の保守・整備を行なってください。

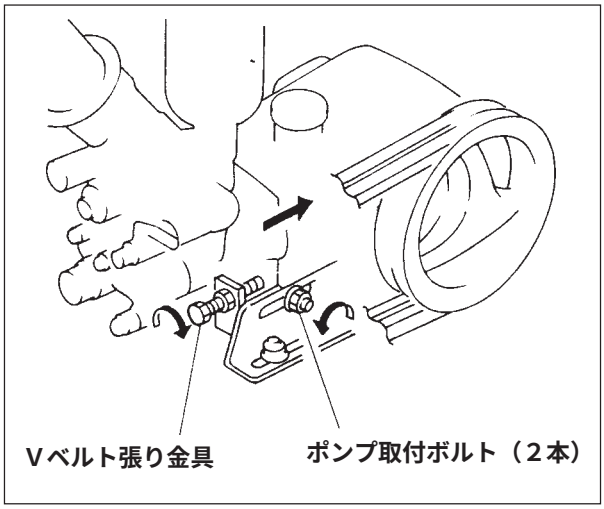
各部の調整

各駆動部のＶベルトが伸びて調整や交換を要する場合には、以下の要領にしたがってください。

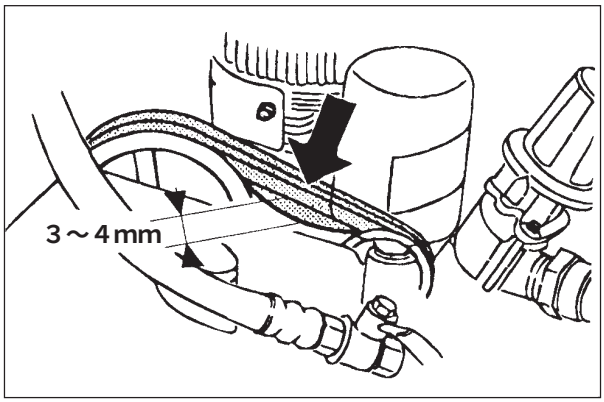


● ポンプ駆動ベルトの調整

１．ベルトカバーを取外します。

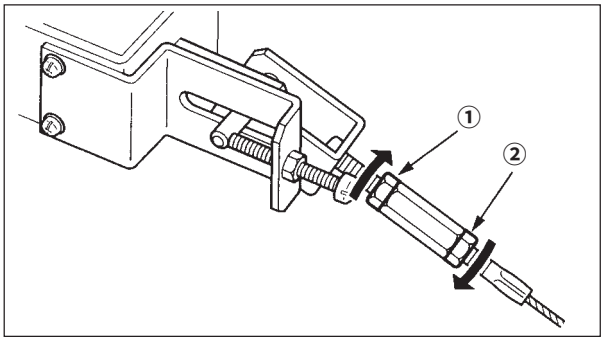


２．ポンプ取付けボルトを締め、ベルトはＶベルト張り金具のボルトを締込んでベルトを張ります。

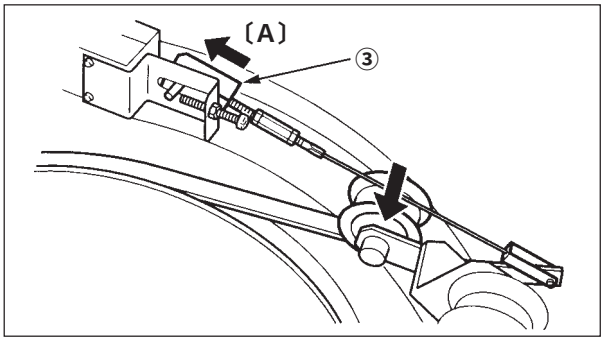


３．ベルトの中心部を指で軽く押して、ベルトのたわみ量が約３～４mmになるように調整します。

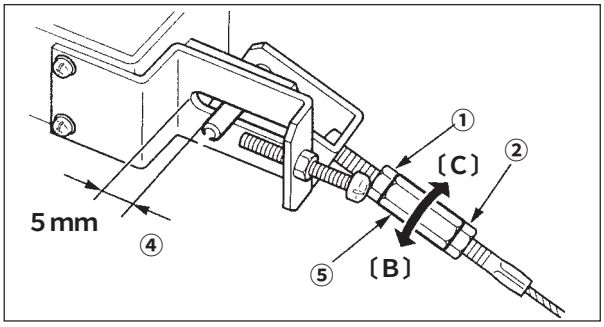
● リールクラッチローラの調整
（ＲＣ４５１のみ）
リールクラッチ部は工場出荷時に調整してありますが、使用中にベルト、ワイヤの伸びなどによりホースの巻取りが正しく行なわれない場合があります。そのようなときにはリールクラッチ部の調整を行なってください。



１．サイドカバーのボルトをゆるめ、サイドカバーを外してください。
２．①、②のロックナットをゆるめます。
（①のナットは左ネジになっています。）

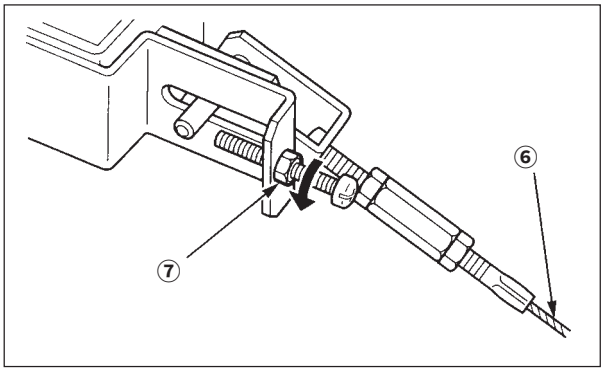


３．③の部分を手に持ち［Ａ］方向へ強く押上げ、リールクラッチローラをベルトへ押し付けてください。



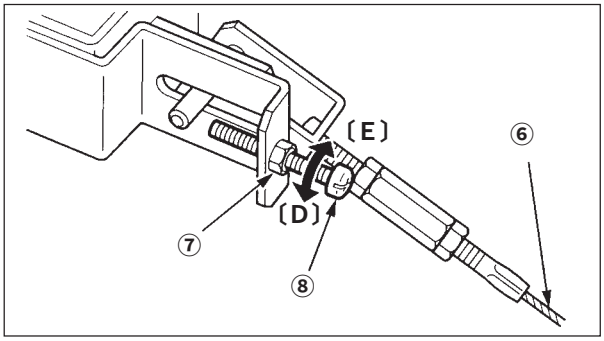
４．その状態で④のピンとガイドミゾの端部間のスキマが５mm程度になるように ⑤のターンバックルを［B］、または［C］にまわしてください。

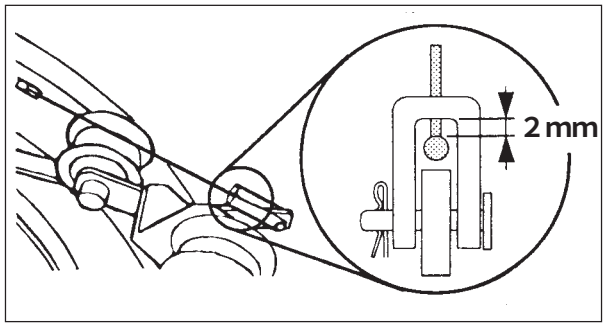
５．①、②のナットでロックしてください。
③から手をはなしてください。



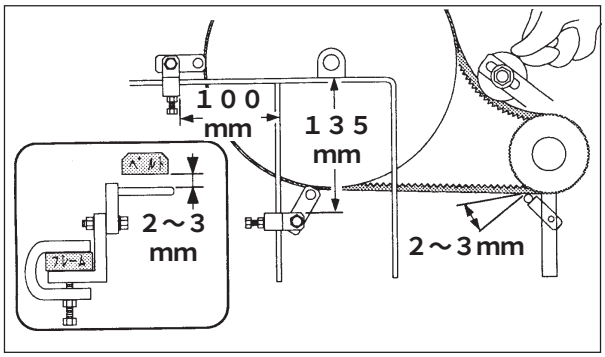
６．次に⑥のワイヤ部アソビの調整をするため、⑦のロックナットをゆるめます。

７．⑧の調整ボルトを［D］または［E］にまわし⑥のワイヤ部が少したるむ程度に調整します。アソビが大きすぎたり、または小さすぎるとリールクラッチが正常に作動しません。





８．調整ができたら ⑦のナットでロックしてください。



● ホース巻取りＶベルト押え金具の調整

１．テンションプーリを強く手で押し込む。

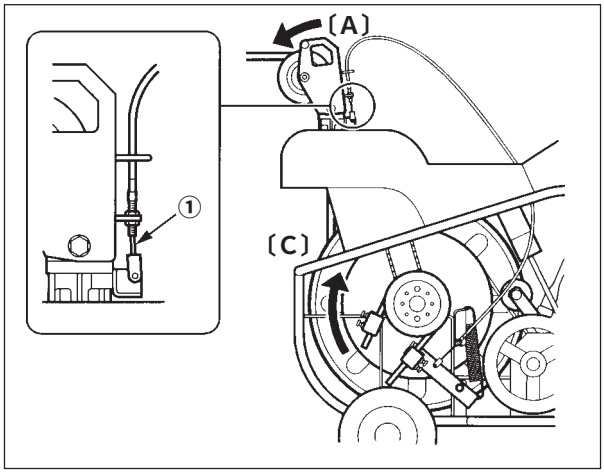
２．各ベルト押えの丸棒とＶベルトとの隙間が２～３mmの所でベルト押えを仮止めします。

３．テンションプーリから手を離しホースを引き出し、ホースリールを回転させる。

４．そのとき、Ｖベルトがプーリに引っ掛からないように各ベルト押えの微調整をする。

● リールブレーキの調整

ホースの引き出し、巻取りを停止するリールブレーキは工場出荷時に調整してあります。しかし、使用している間にベルト・ワイヤの伸びなどにより、調整が必要になってきます。以下の手順にしたがってブレーキの作動を確認し、必要な場合は調整を行なってください。

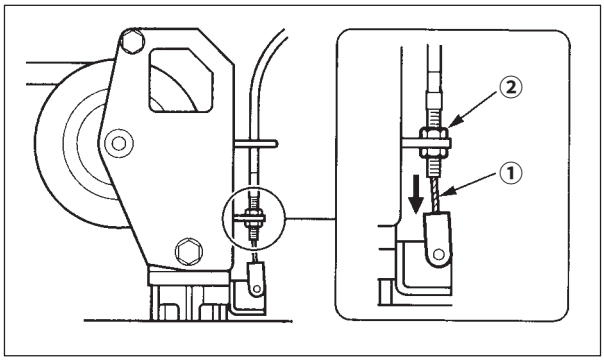


ブレーキの作動確認

以下の状態のとき、リールブレーキは正しく作動します。

１．ホースガイドワイヤ ①に１～２mm程度のアソビがある。

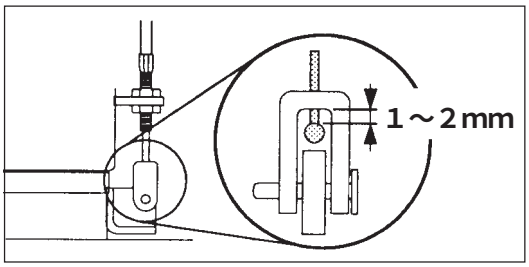
２．ホースガイドを〔A〕方向に押したとき、ホースリールが〔C〕方向にまわる。
ホースガイドから手をはなしたとき、ホースリールが〔C〕方向にまわらない。

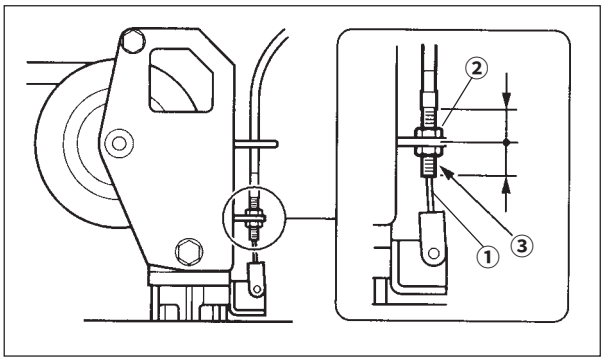


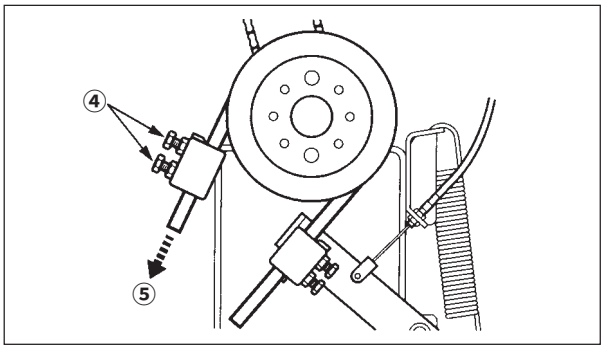
● ホースガイドワイヤの調整

１．ロックナット②をゆるめてください。

２．ホースガイドワイヤ①のアソビを１～２mm程度にしてロックナットを締めてください。







● ブレーキベルトの調整

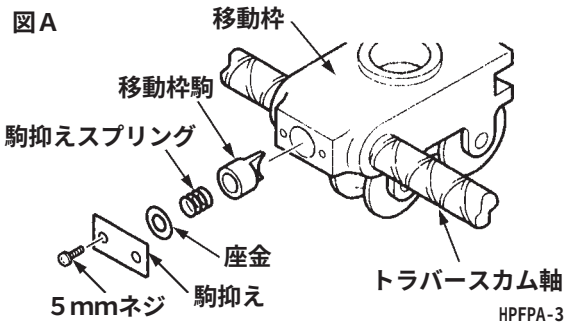
（ホースガイドワイヤを調整してもブレーキが正しく作動しない場合に行なってください。）

１．ロックナット②をゆるめてください。
２．ワイヤを動かし、ワイヤネジ ③の真ん中でロックナットを締めてください。
３．サイドカバーのボルトを外し、サイドカバーを外してください。
４．ベルト固定ネジ ④を２本ともゆるめてください。
５．ホースガイドワイヤが少しゆるむまで、ブレーキベルト⑤を少しずつ引いてください。
６．ベルト固定ネジ④を締めてください。
７．前記の「ホースガイドワイヤの調整」にしたがって、ワイヤ①を調整してください。
８．調整後にブレーキが正しく作動するか確認してください。

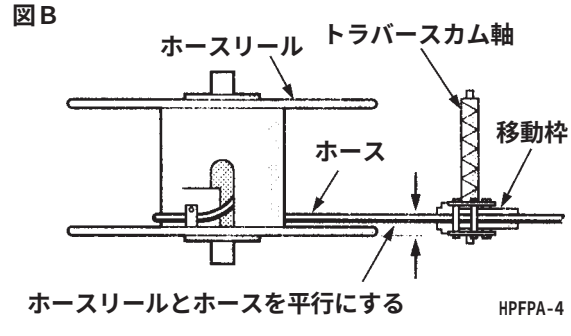
自動並列巻の駒を交換する場合は

本機を長期間使用しホースが並列に巻取られず局所で巻取られる場合は並列装置の移動駒が消耗していますので新品と交換してください。

図Ａ



図Ｂ



● 交換手順

１．側面カバーと上部カバーを外します。
２．駒抑えを取付けているビス（２本）を外し駒抑え、座金、駒抑えスプリング、移動枠駒を取り出します。（図Ａ参照）
３．ホースを全部引き出します。
４．移動枠の中心をホースとリールと平行の位置にします。（図Ｂ参照）
５．移動枠駒をトラバースカム軸の溝にはめ込みます。
６．駒抑えスプリング、座金を入れ駒抑えを押し付け、ビスでしっかりと締付けます。（このとき座金が移動枠と駒抑えの間にはさみ込まれないように注意してください。）
７．ホースを巻きます。

※ 部品組込みの際、オイルを適量注入してください。

故障対策

● 使用中に不具合が起きたときにはバッテリ、ポンプ、エンジンの取扱説明書にしたがって対策を施してください。

● ご不明の点については、地区共立エコー販売店あるいは､お買い求めの販売店へご相談ください。

長期保管

重　要

バッテリ、ポンプ、エンジンの取扱説明書にしたがって長期保管を行なってください。

長期保管する前には必ず以下の手順にしたがってください。

水抜き

重　要

冬期間､水が凍結する恐れのある地域では必ず水抜きを行なってください。

きれいな水を数分間噴霧し､薬液を残さないよう洗浄する。その後､給水ホースを外し１分間カラ運転を行ない完全に水抜きする。

保管場所

噴霧機は以下のような場所に保管してください。

● 直射日光、熱、火気にさらされない。
● 湿気、ホコリがない。
● 安定している。

重　要

この取扱説明書は､いつでも読めるように保管してください。

仕　様

ＲＣ４５１シリーズ

項　目		単 位	RC451/1-8	RC451/1-10
長さ×幅×高さ		mm	1080 × 720 × 960	
質　量		kg	118	123
ポンプ	型　式	－	SP451	
	回転数	r/min	910	
	常用圧力	MPa(kgf/cm²)	5.0(50)	
	吸水量	L/min	31	
エンジン	型　式	－	三菱ＧＭ182 ＬＮ	
	排気量	mL	181	
	最大出力	kW(PS)	4.4(6)	
	燃　料	－	ガソリン	
	始動方式	－	リコイルスタータ	
散布ホース		φmm × m	8.5 × 130	10 × 130
リール駆動方式		－	Ｖベルト（ベルトテンションクラッチ）	
ホース巻取り方式		－	自動並列巻取り	
ブレーキ方式		－	Ｖベルト(常時ブレーキ・ホース引出し時自動解除)	
ラジオコントロール		－	ホース巻取り	

この仕様は予告なしに変更することがあります。

送受信機

送　信　機		受　信　機	
搬送波周波数	４６～４８ＭＨｚ帯	搬送波周波数	４６～４８ＭＨｚ帯
通信方式	単向通信方式	通信方式	単向通信方式
伝送方式	相関複合方式	伝送方式	相関複合方式
使用温度範囲	－１０°Ｃ～＋５０°Ｃ	使用温度範囲	－１０°Ｃ～＋５０°Ｃ
使用湿度範囲	９０％Ｒ以下（結露なきこと）	使用湿度範囲	９０％Ｒ以下（結露なきこと）
保存温度範囲	－２０°Ｃ～＋６０°Ｃ	保存温度範囲	－２０°Ｃ～＋６０°Ｃ
保存湿度範囲	９０％Ｒ以下（結露なきこと）	保存湿度範囲	９０％Ｒ以下（結露なきこと）
送信出力	電波法に定める微弱電波	受信方式	スーパーヘテロダイン方式
変調方式	ＦＳＫ－ＦＭ	中間周波数帯域	１０．７ＭＨｚ
操作	モーメンタリーボタンスイッチ	受信選択度	±４０ｋＨｚ／－６ｄＢ
使用電源	積層形乾電池（６Ｆ２２〈Ｓ－００６Ｐ〉／６ＬＲ６１）	動作電圧	ＤＣ９～９０Ｖ
アンテナ	リードアンテナ	アンテナ	1/4 λホイップアンテナ（ローデイングコイル入り）

ＦＰ３０３／４０３

項　目		単 位	FP303	FP403
長さ×幅×高さ		mm	1080 × 790 × 960	
質　量		kg	116	128
ポンプ	型　式	－	HP303	HP403
	回転数	r/min	980	
	常用圧力	MPa(kgf/cm²)	5.0(50)	
	吸水量	L/min	31	
エンジン	型　式	－	三菱ＧＭ182 ＬＮ	
	排気量	mL	181	
	最大出力	kW(PS)	4.4(6)	
	燃　料	－	ガソリン	
	始動方式	－	リコイルスタータ	
散布ホース		φmm × m	8.5 × 130	10 × 130
リール駆動方式		－	Ｖベルト（ベルトテンションクラッチ）	
ホース巻取り方式		－	自動並列巻取り	
ブレーキ方式		－	Ｖベルト(常時ブレーキ・ホース引出し時自動解除)	

この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

株式会社 共立

東京都青梅市末広町 1-7-2　〒 198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　〒 004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東 5-1-50　〒 984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町 1-39　〒 452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田 566-159　〒 701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原 5-3-7　〒 816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X753-000 09 0
X753615-060 0